



第 6 次 茨 木 市 総 合 計 画

概 要 版



総合計画では「共創」のまちづくりを進めます

● 共創とは？

多様な活動の掛け合わせで、相乗効果により新たなモノやコトが生み出される取組です。本市では、多様な人たちが出会い、集い、活動が生まれることを通じて、誰もが安全安心、豊かさ幸せを実感できる「共創」のまちづくりを進めます。

(1) 活動人口が増えるまち

地域やまちなかにおいて本市では市民活動が盛んです。人口減少の局面を迎えたとしても、まちのそこかしこで多様な活動が展開され、活動人口が増えることで、まちの活力は維持・増大していきます。

人口の減少、価値観の多様化など、大きな変化が進むこれからの時代でも、まちが持続的に発展する「次なる茨木」の実現に向けて、活動人口の増加に資する「共創」の取組を進めます。

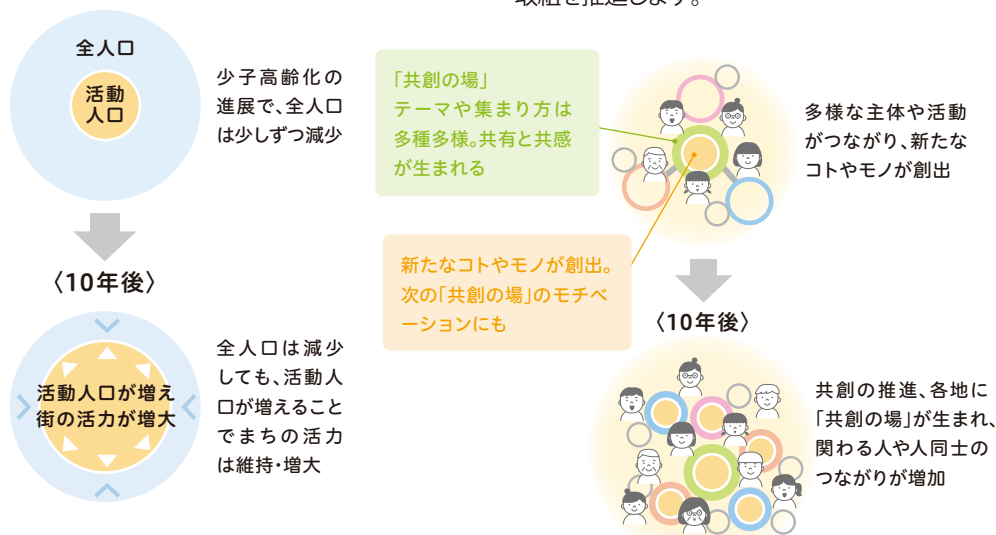
(2) 新たな活動が景色となるまち

「共創の中心地」「実験場」である「おにクル」では、「楽しい」「やってみたい」を「試してみる」から始められ「新たな活動」が生まれています。また、多様な主体が出会いつながる「共創の場」として、多彩な活動が展開されています。

新たな活動は、地域活動と結びつくことで活動の幅を広げ、活動する人には自己実現を、活動を見る人や参加する人には新たな出会いをもたらし活動人口を増加させます。

これからは「共創の場」が市内各地に展開され、新たな活動がまちの景色となるよう取組を推進します。

■ 活動人口の維持・増加



(3) 共創のまちづくりによる諸施策の推進

新たな活動を生む「共創」により、共通のテーマに対して、多様なアプローチが試みられることで、相乗効果が生み出されます。

例えば、多様な分野・主体が気軽にアイデアを出し合えるような景色をまちに定着させていくことで、次の新たな活動を生み出す呼び水にもなっていきます。

「次なる茨木」における共創の例

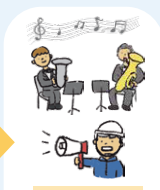
避難訓練（安全・安心の取組）を、ミュージシャン（文化・芸術のつながり）と市と一緒に企画したところ、避難方法を学びながらコンサートも楽しめる「**避難訓練ファミリーコンサート**」が実現。



避難訓練のみ



複数の主体で
企画・検討



芸術鑑賞
×
避難訓練

このような考えから、本市のまちづくりでは、

あらゆる分野・施策において、「共創」の取組を推進することで、誰もが安全・安心、豊かさ・幸せを実感できる「次なる茨木」をさらにカタチにしていきます。

「次なる茨木」における「共創」のポイント

「楽しい」「興味がある」といった気軽なきっかけでも、一歩踏み出すチャレンジでも大丈夫。「みんなの前で歌いたい!」で始めた活動が、いつしか歌のお姉さんとして子どもたちと歌って踊るように…そんな自己実現も「共創のまちづくり」。企業なら「ビジョン・ミッション」、大学なら「学び」も活動のきっかけです。

自己実現

きっかけと

幸せ

豊かさ・

共創のまちづくりは、ひとりでは思いつかなかった新しいモノやコトが生まれたり、関わりやつながりを通じて**豊かさや幸せ**が向上したりするといった「**アウトカム志向**」の取組です。

でも、みんながやりたいことをやっているだけでは、共創にはなりません。

ポイントは「共有」と「共感」。プロセスを共有し、時間や場所がシェアされる中で、お互いの価値観に対する共感が生まれます。

「共感」

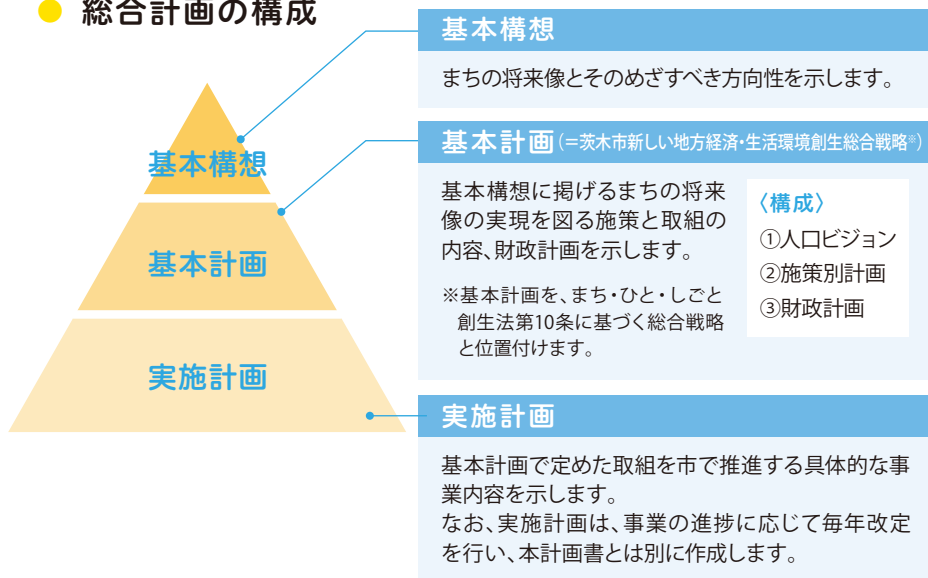
「共有」と

計画の策定について

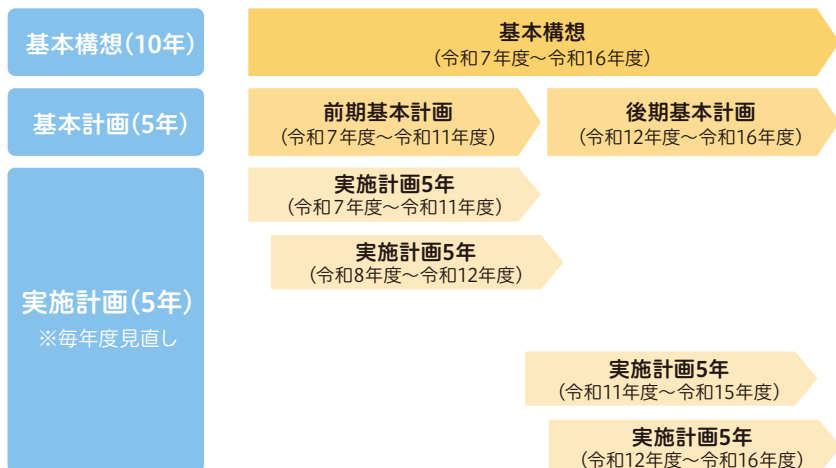
● 総合計画策定の趣旨

総合計画は、将来における茨木市のあるべき姿と進むべき方向についての基本的な指針です。理想となるまちの姿を皆さまと共有し、ともに魅力あるまちづくりを推進するため、第6次茨木市総合計画を策定しました。

● 総合計画の構成



● 計画期間



① 市内での活動状況

「きっかけがない」「特に理由はない」が前回と比べて増加しており、活動を促す取組が必要！

■ 「何もしていない」という回答

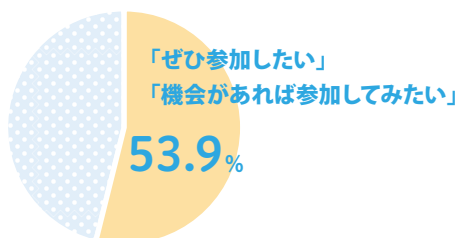
実施年度	回答
平成30年度(前回)	49.2%
令和5年度(今回)	52.5%

■ 活動していない理由

回答	平成30年度(前回)	令和5年度(今回)
時間的な余裕がない	39.4%	32.7%
きっかけがない	23.1%	30.5%
特に理由がない	15.5%	21.8%

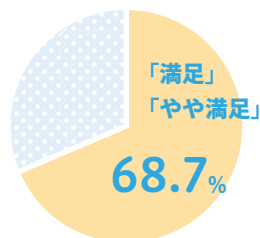
② 共創の取組への参加

「ぜひ参加したい」「機会があれば参加してみたい」が半数を超える結果に！



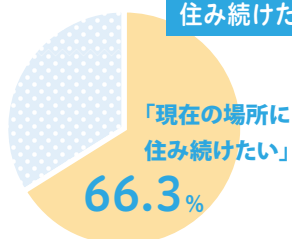
③ 暮らしの満足度

環境分野である将来像6の満足度において、「満足」「やや満足」が半数を超え、一番高い結果に！



④ 今後の定住意向

「現在の場所に住み続けたい」が最多の結果に！



住み続けたい理由

「住み慣れている」が62.0%と一番高いほか、「交通の便が良い」「買い物しやすい」「自然環境が良い」が続く

「交通の便が良い」	59.8%
「買い物しやすい」	36.5%
「自然環境が良い」	29.1%

これからも住み続けていただくために、
魅力や特性を高めるための取組が求められています。

(2) 市民ワークショップ

市民アンケートの結果をもとに、茨木の理想の未来について考え、語り合うワークショップを開催し、各分野のめざすまちの姿を話し合いました。

〈主な意見〉

健康・福祉

- ・ 支え合えるまち
- ・ 一人も見捨てないまち
- ・ 高齢者はいきいきなまち
- ・ こどもはのびのびなまち

子育て・教育

- ・ 地域ぐるみでこどもの成長を感じるまち
- ・ 先生もこどももいきいきするまち

文化・スポーツ・交流

- ・ 日々の暮らしに幸せを感じられるまち
- ・ 幸せでつながるまち
- ・ 多世代間で交流できるまち

市民活動

- ・ 同じ趣味を持つ人と楽しく交流できるまち
- ・ 多様な世代が良い距離感でつながるまち

安全・安心

- ・ 自然と共生し、自然災害に強いまち
- ・ 防犯に強いまち
- ・ みんなが安心して暮らせるやさしいまち

産業・都市・交通

- ・ 内からも外からもアクセスしやすいまち
- ・ 茨木モンの発信
- ・ 交通ストレスフリーなまち

自然環境・地球環境

- ・ 市民がつくる環境都市茨木
- ・ 自然を身近に感じて暮らせるまち
- ・ やりがいを感じられるまち

デジタル

- ・ どこでも市役所なまち
- ・ 家より快適なまち
- ・ こどもとの時間が増えるまち



市民アンケート、市民ワークショップでは、
「**つながり**」に関する意見が
数多くありました。

市民活動や
地域での
交流を望む

お互いが**つながり**支え合う

だけではなく、普段接することのない

社会的属性が異なる人同士が**つながり**、

新たな価値を生み出し**高め合う**ことが必要と考えられます。

地域の
つながり
世代間の
交流の
希薄化に
対する不安

● 第5次総合計画期間のまちづくり

(1)おにクル(市民会館跡地エリア)の取組



文化・子育て複合施設の整備を進めるにあたり、「**市民会館100人会議**」など、**市民の皆さまとの対話**から、「育てる広場」というキーコンセプトが生まれました。



イバラボ
社会実験IBALABでは、芝生広場づくりから企画検討、実施、芝生の撤去までを市民の皆さまと行うなど、整備に関わった市民の人数は日本一と自負できるほど、**多数の市民参加**の取組を実践しました。

(2)市民・事業者・大学等と連携した取組

中心市街地のまちづくりとして、様々な社会実験やワークショップなどを通じて、**多様な主体が出会い、活動が生まれる「場＝中間領域」**を創出させる「**イバラキクラウド**」の取組を進めてきました。



山とまちをつなぐハブ拠点として期待される「ダムパークいばきた」の整備においては、山とまちの方々が集まり、様々な活動を通じて、「**ダムパークいばきたコミュニティ**」を立ち上げ、北部地域の魅力向上を図る取組を進めてきました。

市民の想いやこれまでのまちづくりを踏まえると・・・

多様な主体によるプロセス重視・
ひと重視の**共創のまちづくり**の環境が醸成

基本構想の概要

● まちの将来像

計画策定にあたり整理した魅力やこれまでのまちづくりを踏まえ、共創のまちづくりを進め、みんなが多彩な幸せを実感できる持続可能なまちをめざすため、次に掲げる7つの分野において、茨木市がめざす将来像を設定することとします。また、各分野における将来像は一つではなく、複数設定しており、多様な価値観のもと、多様な主体が活躍できるまちづくりをめざします。

なお、全ての将来像がその分野の中で完結するのではなく、全ての将来像が**有機的につながり、横断的・複合的な視点を持つ**ことで、各将来像が示すまちの姿をめざすこととします。



市民アンケート及び市民ワークショップにおけるご意見を踏まえ、7つの分野ごとに設定した将来像(めざすべき姿)をそれぞれご紹介します。

将来像1

健康・福祉

●つながり大切に、ともに 支え合えるまち

地域交流を促進し、相談体制を整備することで、ともに支え合えるまちをめざします。



●いきいきと日常を過ごせるまち

年齢や属性等に関わらず、誰もがやりたいことができるよう、社会参加に壁を感じている人も、自分が社会から取り残されているのではなく、社会の一員であるという感覚を持つことができ、いきいきと日常を過ごすことができるまちをめざします。

●いつまでもすこやかに安心して暮らせるまち

市民一人ひとりが健康への関心と理解を深め、健康づくりに主体的に取り組むことにより、すこやかで心豊かに暮らせるまちをめざすとともに、地域医療の充実、介護者負担の軽減等により、もしものときでも安心して暮らせるまちをめざします。

将来像2

子育て・教育

●こども・保護者の「うれしい」を育むまち

全てのこどもの個性を尊重し、全ての子育てが家庭に切れ目なく支援を行うことで、こどもも保護者もたくさんの「うれしい」を育めるまちをめざします。

●地域ぐるみでこどもの成長を感じるまち

地域全体で子育てを支援し、保護者を孤立させることなく、子育てでつながる地域社会となることで、こどもが成長し、いきいきと暮らすことができるまちをめざします。

●こどもの「好き！」を伸ばせるまち

こどもたちの個性、障害の有無、育つ家庭環境などに関わらず、一人ひとりが安心できる居場所があり、学びの中でこども一人ひとりの「好き！」を伸ばせる体験をとおして、全てのこどもが自分らしく輝き、喜びとともに成長していくことができるまちをめざします。



将来像3

文化・市民活動

●いくつになっても学べるまち

勉強だけに限らず趣味活動や、興味を持った分野の課題について、何歳であっても誰もが自ら知り、学ぶことができ、その学びにより豊かな人生を送ることができるまちをめざします。

●プレイヤーもサポーターも
スポーツで幸せを感じられるまち

運動やスポーツを楽しめる環境が充実し、プレーするだけでなく、観戦を楽しみスポーツを身近に感じるなど、様々な関わり方により、スポーツを通じて幸せで健康に暮らすことができるまちをめざします。



●継続的に文化に触れ、創り、育むまち

日常生活の中で継続的に文化芸術に触れられる環境づくりを行い、新しい価値を創造することができるとともに、これまで継承されてきた歴史・文化資源にも触れ、受け継ぐことで心豊かな生活ができるまちをめざします。

●お互いを認め合い、つながり、活動できるまち

地域の多様な主体が出会い活動する場を創出し、地域コミュニティが醸成される環境を育むとともに、年齢・性別・国籍・職業などの社会的属性や価値観や生き方など様々な部分で、お互いの人権を尊重し、違いを理解し認め合うことで、様々な背景を持つ人同士がつながり、活動ができるまちをめざします。

将来像4

安全・安心

●災害に強い都市基盤を持つまち

安威川ダム・大型物流施設等の地域資源を有効に活用した防災対策が進むとともに、防災拠点の機能充実や広域連携により、災害に強く安心して暮らすことができるまちをめざします。

●安心して上下水道が利用できるまち

地震対策、老朽化対策、浸水対策等を進めることで、自然災害等による被害を最小限にとどめ、被災した場合であっても機能が継続され、安心して上下水道が利用できるまちをめざします。

●地域のつながりが強く、
防災・防犯対策が充実しているまち

多様な災害に即応できる消防・救急体制が充実しているとともに、大学や事業者等との連携や、地域のつながりにより、防災・防犯対策、消費者教育が進んでいるまちをめざします。



●個性あふれる茨木らしさで活気あふれるまち

交通利便性等の強みをいかした産業の育成、地元企業や大学との連携によるイノベーションの創出、創業促進、農林業等による地産地消の取組や担い手の育成、市内産業の認知度向上などにより産業が発展するとともに、茨木にある個性をいかした観光の振興を実現し、活気のあるまちをめざします。



●山とまちが調和した、魅力的で過ごしやすく暮らしやすいまち

茨木の特性である「山」と「まち」の調和がとれた土地利用誘導を図りながら、北部地域や中心市街地の魅力をいかした都市整備等、地域特性に応じた都市づくりを進めるとともに、緑豊かで良好な景観や住環境を形成することで、人々が思い思いの過ごし方ができ、魅力的で暮らしやすいまちをめざします。

●安心・安全・快適に移動できるまち

誰もが安心して安全にまちなかを移動でき、あらゆる交通手段を利用し、利便性が高く円滑な交通環境を実現することで、気軽に外へ出て活動ができるまちをめざします。

●一人ひとりの小さな行動が支える、環境に優しいきれいなまち

まちの美化や脱炭素化の推進、環境への負荷を軽減する資源循環等、様々な観点での「きれいなまち」を実現するために、一人ひとりが実際に行動に移しているまちをめざします。

●自然を身近に感じて暮らせるまち

北摂山系の豊かな自然が守られ、まちなかに身近な緑があふれることで、多様な動植物と触れあうことができ、癒しや健康の増進などにつながり、快適な暮らしができるまちをめざします。

●環境について学び、みんなでつくる環境のまち

地球規模の環境問題から茨木での環境取組についても学ぶことで、茨木市における理想の環境の姿を考えるなど、環境教育が充実し、一人ひとりの意識が高まり、行動に結びついているまちをめざします。



将来像7

行財政運営

●デジタルを活用して豊かに暮らせるまち

デジタル技術により、社会・経済・生活等のあらゆる分野をより良い方向に進めるとともに、全ての世代のかたがデジタル化の恩恵を受け、豊かに暮らすことができるまちをめざします。

●まちの情報を受け取り、発信したくなるまち

市民のかたが市政や地域に関する情報を受け取り、まちへの信頼・愛着を高めることで、自らもまちの情報を発信するなど「関わり」を増やしたくなるようなまちをめざします。

●安定した行政サービスが提供される、持続可能なまち

人口減少社会の到来などにより財政状況が厳しい中においても、効率的・効果的な行政運営により健全な財政を維持することで、安定した行政サービスが持続的に提供されるまちをめざします。



Ibaraki City

基本計画の内容

● 施策体系

基本構想を実現するための各分野における施策体系は次のとおりです。

各分野においてそれぞれの施策の充実・推進を図ります。

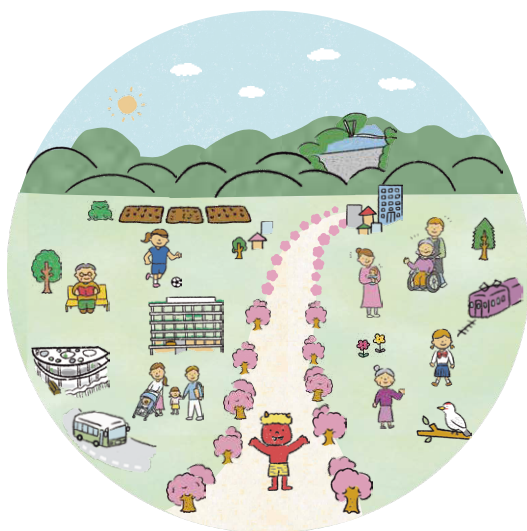
将来像 1 健康・福祉 	1-1 地域福祉	お互いが支え合える地域共生のまちづくりをめざします。誰もが安心して生活ができるまちづくりを進めます。
	1-2 高齢福祉	高齢者の生きがいづくりや社会参加など、地域包括ケアシステムを推進するとともに、健全な介護保険事業の運営に努めます。
	1-3 障害福祉	障害者が住み慣れた地域で自立した日常生活・社会生活を送れる地域共生社会を目指します。
	1-4 健康づくり・地域医療	市民の健康増進や食育、自殺対策の取組を推進するとともに、地域医療の充実や持続可能な保険制度の運営に努めます。
将来像 2 子育て・教育 	2-1 子育て	こどもの人権や個々の特性が尊重され安心して過ごせる環境や、安心して子育てができる環境を整えます。
	2-2 教育	「非認知能力（茨木っ子力）」をはじめ、こどもに必要な力の育成を進めこれからの社会を生き抜く資質・能力を育むことをめざします。
将来像 3 文化・市民活動 	3-1 生涯学習	“学んで楽しい”と思える生涯学習活動のできるまちの実現をめざします。
	3-2 スポーツ	スポーツに親しみ健康で豊かに暮らせるまちの実現に努めます。
	3-3 文化芸術	誰もが文化芸術と出会え、多様な主体と文化の新たな価値を共に創造することで、市民の心豊かな暮らしの実現をめざします。
	3-4 人権・ダイバーシティ	全ての施策を人権尊重の視点に立って推進し、人権が尊重され差別のない、誰もが個性や能力を発揮できる社会の実現をめざします。
	3-5 つながり	多様な主体による取組の支援等を通じて、つながりづくり、コミュニティの醸成に努めます。

将来像 4 安全・安心 	4-1 防災	自然災害を含む多様な危機に対処するための対策を進めます。
	4-2 消防・救急	消防・救急体制の充実強化を図り、市民の防火意識向上に努め火災予防を推進します。
	4-3 防犯・消費者教育	防犯対策の推進や防犯意識の高揚を図り、地域防犯力の向上につなげます。

将来像 5 産業・都市 	5-1 交通	総合交通戦略に基づき、総合的な交通施策を進めます。
	5-2 産業・観光・労働	地域産業の維持・活力向上を図り、地域経済の活性化、まちの魅力向上につなげます。
	5-3 都市計画	地域の特性に応じた都市づくりや緑・公園の保全・活用等により良好な都市環境を形成します。
	5-4 住環境	空家の管理不全の解消や空家化の予防抑制に向けた所有者への働きかけ等を行い良好な住環境の保全をめざします。

将来像 6 環境 	6-1 脱炭素	ライフスタイルを見直すことにより脱炭素をめざします。
	6-2 自然環境	生態系サービスを維持し回復させるため、生物多様性の保全に取り組みます。
	6-3 資源循環	ごみの発生を抑制し、再利用及び再資源化を進めます。
	6-4 生活環境	環境の把握と事業者に対する指導に努め、生活環境の保全の推進に努めます。

将来像 7 行財政運営 	7-1 行政運営	デジタル技術を活用した市民サービスの向上と行財政運営の効率化を進めます。
	7-2 財政運営	行財政改革の推進や財政計画に基づいた健全な財政運営に努めます。



Ibaraki City



令和7年(2025年)3月発行

【編集・発行】

茨木市企画財政部政策企画課

〒567-8505 茨木市駅前三丁目8番13号

TEL:072-620-1605

<https://www.city.ibaraki.osaka.jp>



次なる
茨木へ。



茨木市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。